

幼児教育—スウェーデンの事例

Förskolan Skärvevägen

すべての子どものための
包括的で体系的・ホリスティックな
幼児教育構築の物語

ゲニラ・ダールベリ
(ストックホルム大学 名誉教授)

幼児期を取り巻く政治
— 問い

今、ここにいる子どもたち、
未来の子どもたちに
我々は何を求めるのか

我々の時代を分析すると…

60年代から70年代初頭における幼児教育

70年代に起こった幼児教育期の保護者や支援する人たちによる大規模なデモ

叫び声は訴えた

— 全ての子どもに保育所を

私たちは保育を求めている

— ただし、その質は
高くなければならない

子どもたちの就学前教育に関する委員会
(1972年)

幼児教育 — 公共空間

すべての子どもたちのための共通善

幼児教育の施設とは…

市民としての子ども、教師、保護者が、
公的な対話や文化的、経済的、社会的な価値
を持つプロジェクトに参加することができる
倫理的・政治的実践の場である。

子どもたちの就学前教育に関する委員会
(1972年)

対話のペダゴジー

子どもの自己の発達

コミュニケーション

概念の発達

ジャン・ピアジェ

エリック・H・エリクソン

パウロ・フレイレ

ジョージ・ハーバート・ミード

自由遊び

社会政策および家庭政策との関連

育児休暇（母親／両親）

1971年 - 6ヶ月

2016年 - 18ヶ月

家庭への支援（ファミリー・サポート）
に関する公的調査（1974年）

子どもたちは、母親
との関係以外にも
深い関係を持ってい
る可能性がある。

1985年の歴史的な法案

「すべての子どもの権利としての
就学前教育を」

子どもの発達や学びに対し、教育はどのような役割を果たすのか。これは、明確な政治的問いとして認識されるようになった。
(Martin, 2006)

ピスリンゲン法

(株式会社が運営する保育施設への
国庫補助を禁ずる法律)

幼児教育は、
利益を追い求めるべきではない

新しい保育法（1995年） によって保障された保育

公私立のプリスクールや家庭的保育において1歳から子どもの居場所を提供しなければならぬ。
居場所の提供は、入所申請から3～4ヶ月の間に、不当な保留をされることなく実施されなければならない。

1995年、社会福祉省から教育省へと
管轄省庁の権限が委譲された

チャイルドケアから教育への転換
1歳から

国際的にも独自のシステム

就園率

1975年

すべての子どもの10%
6ヶ月児～3歳児は2%

2016年

1歳児	48%
2歳児	88%
3歳児	94%
4歳児	96%
5歳児	96%

BOSK委員会

1998年 就学前教育カリキュラムの策定
2010年、2016年、2018年に改訂

言葉、数学、科学を重視

— それぞれの子どもがすでに身につけている
ことと関連づけながら

基本的な価値観

就学前教育は、民主主義という価値観の基礎の上に立っている。学校法（2010；800）は、就学前教育の目的を、子どもたちによる知識や価値の獲得及びそれらの発展であると規定している。すべての子どもたちの育ちと学び、そして生涯続く学びへの意欲を支援すべきである。就学前教育の重要な任務は、スウェーデン社会の基盤をなす人権尊重と民主主義的な価値観への敬意を子どもたちに授け、確立することである。就学前教育に携わる誰もが、一人ひとりに内在する価値を尊重し、我々が分かち合っている環境を大切にするよう励まさなければならない。

人の生命の不可侵性、個人の自由と尊厳、誰もが等しく価値を持つこと、ジェンダーの平等、そして弱者や傷つきやすい者との連帯といったことは、就学前教育における子どもたちとのかかわりにおいて、積極的にとりあげなければならない価値観である。

就学前教育における活動は、民主的に取り組まれるべきである。つまり、社会へ積極的に参加するうえで、子どもたち自身の責任感や興味関心がより育まれるような基盤を提供するということである。

2010年改訂された就学前教育カリキュラム
(Lpfo 98, p. 3)

開かれたカリキュラム

目指す目標
(到達するための目標)

専門家に権限を

レッジョ・エミリアの哲学
—挑戦

ローリス・マラグッツィ (1922-1994)



ローリス・マラグッツィ (1922-1994)

マラグッツィは、レッジョ市の優れた指導者であり、フレーベル、モンテッソーリ、デューイ、ピアジェといった彼が英雄と考える人物と同列に語られるべき思想家である。

Gardner, 1998, p. xvi

豊かな資質を持ち、好奇心にあふれる存在として子どもに敬意を払うこと
—100の言葉を持ち、それぞれの学ぶ力と学びたい意欲をもつ子どもとして

有能な存在としての子ども

1991年 時代の変化

新しい状況や新しい挑戦が始まった
規制撤廃 市場 自由選択

温かく受容的なペダゴジーは
傾聴からはじまる

1991年

ピスリンドン法 (株式会社が運営する保育所
への国庫補助を禁ずる法律) が廃止された。

2006年2月

私立の就学前教育施設の設置自由化

自治体ではない様々な肩書きを持つ運営者
に開かれた

営利目的？

元に戻すことの困難さ

交渉し解決すべき新たな対立や課題

出てきた批判...

- ・ 全体的に質が下がったのでは？
 - ・ コストが増加したのでは？
 - ・ 分断が強まったのでは？
- 包摂と排除の問題はどうするのか？

2018年 新カリキュラム

教育の概念の強調
幼児教育者の役割
アセスメントと評価の役割

ストックホルム・プロジェクト
時代の変わり目における教育

- ・ ネットワークの形成
- ・ 教育的ドキュメンテーション
- ・ プロジェクトツィオイオーネ
- ・ 100の言葉

下からの動き

学校化？

レズジョ・エミリアからの
インスピレーション

ポスト構造主義

幼児教育の質を超えて
評価に関する言葉

多様性

包摂

自律性

信頼と参加

標準化

テスト

統制・管理

不信？

競合する世界市場

序列化

公的セクターを現代化する方法 としての新しい統治の装置

総合的品質管理

ニユー・パブリック・マネジメント

ー公共選択論

私たちがどのようにして教育活動を探究し、
判断し、評価するのかわかる点、我々が
態度を明確に示さなければならぬ最も差
し迫った課題の一つである。

Dahlberg, Lundgren & Åsén, 1991

OECD

幼児期の発達と早期学習に関する
OECDの研究とは？

個々人の歴史から
意味を奪うことになるのでは？

測定と数値への信頼

…質は、数値を用いて示されなければ、確信はされないようである

…数値が君臨する一方で、それによって権威づけられた考え方には、疑いの眼差しが向けられる

Sven-Erik Liedman

アンゲロ・サクソンの「テスト論(テストロジー)」は、知識の不合理な単純化に他ならない。それは、個々人の歴史から意味を奪うことなのである。

Cagliari, et al., 2016, p. 378

問題児の時代？

私たちは、かつてないほどに、いわゆる問題児を「発見し、観察して」いる

“危険にさらされた” “助けが必要な” 存在として、子どもを分類している

— 欠陥のある子どもとして

あの子って、いつもこうだよね

あの親には、これ以上期待できないよ

問題を子どもに帰し、
我々が「正常」と思いこんだ状態からの
逸脱としてみなしてきたのではないか

本質主義

子どもたちの可能性や意欲を
削いでいないか

可能性を摘んでいないか

どうなる？

民主主義

平等

連帯

他者を、分類や典型によって把握すること
のできない存在として考えることで、
教育は大きく変わる

それは、教育全体の在り方に
大きな変革を迫ることである

多様性こそが、
我々の最大の類似性なのか

人生における限りない多様性や複雑性を、
就学前教育における学習機会として
捉えることができるのか

同質化や正常化をめざすうえでの
克服すべき障害とみなすのではなく

プロジェクト

トランス・カルチャリズムと
コミュニケーション

ハロンベリエン
における子どもの記録

ステラ・ノヴァ・プリスクール
のプロジェクト

※ハロンベリエン：スウェーデン ストックホルムの地下鉄の駅

ハロンベリエン

恵まれない「問題を抱える」郊外

社会的な不正

差別

移民者のプリスクールとして
認識され、象徴されること

欠陥のあるプリスクールなのか
欠陥のある子どもなのか

いかにして、責任あるかたちで
他者性—異質なもの—との出会いを
もたらすことができるか

ステラ・ノヴァ
—ある郊外とそこの住民に関する
もう一つの物語

プリスクールを倫理的、審美的、
政治的な実践の場として捉える

子どもやプリスクールの
すでももっている固有な可能性を
信頼すること

*You become what you
encounter*

ハロンベリエンの写真

出会いの倫理

主観性は、
子ども、大人、物的環境の間の
関係性ややりとりの中で
形成される

聴くこと

他者を同一のものに仕立て上げるのではない

ステラ・ノヴァ

私たちは、柵の外に出られるのか

答え？

柵の外に出られないって、わかっている
でしょう

教育者は、子どもたちの
共有している願いを
大事にしている

環境にアフォーダンスを持ち込むことを通して：
紙、ペン、イーゼルなどを子どもたちが
使えるように携行する

- リスクはある
－ 大人はプロジェクトがどこに
向かうか分からない

教育者は多くのことを計画し、検討している

教会の時計の鐘

ハロンベリエンのショッピングモールや
そこに住む人々への贈り物？

多くの話し合いや交渉が
行われている

そこには意思が存在している

ロボット！

またか！

勤勉に 取り組むこと

焦点を合わせて 取り組むこと
協力して 取り組むこと
根気よく 取り組むこと
集中して 取り組むこと

豊かな子ども、豊かな保護者、
豊かな教師

子どもは、すでに「小政治的世界」を形成している。子どもは、すでにグローバル・コミュニケーションに関わっている存在であり、その参加者なのだ。

私たちは、生きることを信頼し、
また生きるということに対して
信念を持たなければならぬ

ワンダー

子どもたちにとって予期せぬことや、子どもたちを驚かせること、がっかりさせること、戸惑わせることが、毎週、隔週、あるいは毎月のように生じる。そのことが、私たちに、未完の世界・未知の世界・私たちがもっと知りたいと願う世界があることを気付かせてくれる。...この驚きや不思議さ(ワンダー)という贈り物を抱きつづけられるということが、子どもとともにある人間の基礎となる資質なのである (Malaguzzi, in Cagliari et al., 2016, p.392).